

市長記者会見記録

日時：2024年3月21日（木）14時00分～14時10分

場所：本庁舎2階 記者会見室1・2

議題：市政一般

<内容>

【市政一般】

【司会】 ただいまより、定例市長記者会見を始めます。

本日の議題は、市政一般となっております。

それでは、早速質疑に入りますが、進行については幹事社さん、よろしくお願いいたしますします。

《富士通レッドウェーブ田中元選手について》

【東京（幹事社）】 幹事社の東京新聞です。よろしくお願いいたします。

【市長】 お願いします。

【東京（幹事社）】 いつもながら、ちょっと柔らかい感じで行きたいと思うんですけども。以前、ツイッターで、「大谷、川崎市長に似てきたな」という投稿を見かけまして、この大谷というのはあの大谷なんだろうとか、この川崎市長というのはやっぱり私が知っている川崎市長なんだろうとか、ちょっと一瞬悩んで。それは一般の方の投稿だったので真偽はよく分からないんですけども。

ところで、川崎市を本拠地とするレッドウェーブで御活躍された田中真美子さんが大谷選手と御結婚されたということで、令和3年10月に、田中さんを含むレッドウェーブの選手、コーチの表敬訪問を受けていらっしゃるかと思うんですけども、あと、市長はレッドウェーブの試合を御覧になったりもしているかと思うんですが、田中さんの選手時代の印象など、覚えていらっしゃるがあれば、教えていただけますでしょうか。

【市長】 いや、正直、田中さんのワンプレーワンプレーとかを覚えているわけではないんですけども、昨年—表敬訪問を受けたことは記憶しておりますし、大谷選手と結婚されたということを知って、非常に驚いたと同時に、すごくよかったなという気持ちでいっぱいです。心からお祝い申し上げたいと思います。

【東京（幹事社）】 新婚のお二人に向けて、夫婦円満の秘訣をちょっと教えていただき……、お伝えいただけたらと思うのですが。

【市長】 夫婦円満の。いや、十分に円満そうに見えるので、アドバイスは必要な

だと思いますけれども、本当にすてきなカップルだなと。報道されているとおり、どこから見ても、どのコメントを見ても、何かもう、すてき過ぎるカップルで、むしろ憧れます。

《多文化共生社会推進指針について》

【東京（幹事社）】 ありがとうございます。

ちょっと話が変わりまして、市が先日改定を公表されました多文化共生社会推進指針の中で、外国人市民の地方参政権の実現に関するくだりが市議会でも話題になりました。その中で、文教委員会で、中村局長が、日本国籍の人のためだけの政策ではなくて、これからの日本社会の在り方を考える上では、様々な立場の人たちが社会に参加できることが必要なので、その一つの制度として地方参政権があることは本市として望ましいと思っているが、その上で実現を市が求めていくとか、今、制度をつくりたい、つくっていきましょうという立場ではないというふうなことをおっしゃいました。

この中で、局長としては、地方参政権があることは本市として望ましいと思っているという答弁だったんですけども、これは、主語としては市としてでよいのか、それとも局長個人の見解として考えたほうがいいのかということについて、お考えを伺いたいんですけども。

【市長】 正確に言うと、局長が答弁した局長の考え方だと思いますが、若干超えている部分もあるのではないかと、今、聞いた印象ではありますね。

【東京（幹事社）】 この答弁を受けて、その後、三宅市議が、局長、今、地方参政権は望ましいという答弁があった。これは福田市長の意向と見てよいのかというふうなことを質問されまして、でも、それに対して局長は、ちょっとずらされたかなというふうな、地方参政権の実現については、ほかの自治体と連携しながら、国に働きかけることを検討しますというのを、市長の意思として、市長からも、この文言でやっといこうという指示を受けたと答えられてはいるんですけども、そういう意味では地方参政権があることは市として望ましいというのは、市長としての意向ではないという捉え方でよいのでしょうか。

【市長】 正確に言えば、どのように指示をしたかということ、この文言に対する修正、変更ができないかというような意見が議会の中であるという聞き方をされました。あのタイミングで、議会の一部の方からそういうお話があったからといって、これまで積み上げてきた議論をこのタイミングで変えることはちょっと不自然だし、プロセスとしてはちょっと違うのではないかということで、この文言でいこうということ

指示いたしました。それ以上、それ以下でもありません。

だから、地方参政権について云々かんぬんを私がコメントしたということはありません。

【東京（幹事社）】 ありがとうございます。

各社さん、いかがでしょうか。

【読売】 読売新聞です。

今の話に関連してなんですけれども、先日の議会の自民党と維新の会の退室の動きについては、市長自身はどういうふうに見ていらっしゃいましたでしょうか。

【市長】 正直、行政文書の指針のことについて、決議という形で意見を示されたというのは、ちょっと今まで私も経験がないですし、あっ、という若干の違和感を感じましたけれども、ですから、議会は議会なりのいろんな背景、理由があるのでしょうか、そのことについては私がコメントするのは控えたいと思いますが、正直、行政文書の文言修正をするしないで決議案まで来たのかというのが、ちょっと、やや違和感というか、不思議な感じはいたしましたね。委員会でやり取りをしている話ですから。

【読売】 その後、決議案ではなく、そういう委員会での、代表質問だったり、一般質問とかで追求していくべきだというようなお考え。

【市長】 いや、手法については、どういうふうにやっていくかというのは議会のルールの中でやっていくべき話ですから、それは云々かんぬん言うつもりは全くありませんけれども、しかし、その文言の話で決議までやるかというのにはちょっとびっくりしたと、そんな例ってあったかねということですかね、感想とすれば。

【読売】 市長自身は、外国人参政権についてはどういうお考えをお持ちですか。

【市長】 僕は、慎重に議論されるべきものだとは思いますが。平成22年に議会で意見書が（※補記）議決決議をされておりますけれども、やはりいろんな考え方があると思います。いろんな考え方がある中でどういう課題があるのかという、情報提供がしっかりされているのかという話は、まだまだ議論が尽くされてないのではないかなど、感覚的には思います。

まあ、これは専ら国の政策の話でありますから、私がどうのこうのというふうな話ではないかもしれませんが、しかし、大変重要な話なので、広く国民に、しっかりと議論がなされるべきと思っています。

【読売】 ありがとうございます。

【司会】 ほかに、御質問いかがでしょうか。

《副市長の選任について》

【時事】 すみません、時事通信社です。

4月で副市長が伊藤さんと三田村さんに交代されるということなんですけれども、私は全部の自治体を見たわけじゃないですけれども、副市長とか、あと都道府県でいうと副知事とか、川崎市の場合は2期8年というのが結構多いみたいなんですけれども、ほかの自治体と比べるとちょっと長いかなと。もしくは、同じ市役所の中で、局長以下は多分2年から3年ぐらいで交代されると思うんですけれども、副市長が2期8年で比較的長いという印象をちょっと受けたんですが、市長から考えて、2期8年は、妥当だとか、もしくは今後、例えば、もうちょっとスパン、在り方……、何ですかね、就任期間の長さについてちょっと考えてみようかなとか、その辺の見解があったら伺いたいんですけれども。

【市長】 ありがとうございます。

基本的には、1期4年で考えております。それがこの方に、この案件について、あるいはこういうことについてもう少しやってもらいたいなと思っているから続投という形になっているだけで、毎回、1期4年の中でしっかりと判断しているということでございます。何となく2期8年で考えているつもりは全くありません。

【時事】 ありがとうございます。

【司会】 ほかに、質問よろしかったでしょうか。

それでは、以上をもちまして、本日の市長記者会見を終了いたします。ありがとうございました。

【市長】 ありがとうございました。

(以上)

・この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理した上で掲載しています。

(お問合せ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当